

戦争は街焼き尽くした

瀬戸内海の東端、淡路島を望む兵庫県明石市。戦後71年を迎え、悲惨な戦争の記憶を忘れず、平和のバトンを引き継いでいこうと、戦争法廃止2000万署名のとりくみが盛り上がっています。
(名越正治)



駅前では署名を訴える人たち—兵庫県明石市

教え子に手紙で訴え

兵庫・明石



「戦争する国づくりを許さない明石市民実行委員会」が毎月定例で実施している駅頭宣伝。市内に住む佐伯圭一さん(74)は「私は明石空襲の体験者です」と語り、ズボンのすそを上げ、ただれた傷の跡を見せました。
明石空襲は、終戦の年、1945年1月、米軍のB29爆撃機62機が襲来し154トンの爆弾を投下、322人が死亡した。県内で最初の空襲です。これ以降、半年間に6回攻撃され市街地の6割が焼失、約5万7000人が焼け出され、死者は1496人になりました。
九死に一生得る

佐伯さんの自宅は、米軍の攻撃対象だった川崎。戦争は街を焼き尽くし、情け容赦なく人を殺すもの。戦争反対の私の原点です。佐伯さんは「二度と戦争はしてはいけない」と2000万署名を訴えて回りました。はんこ屋店主、スポーツジムの会員と知人たちが

広げよう
2000万署名

航空機(現川崎重工業)明石工場の近くにありました。警報と同時に防空ごうに隠れるものの、「これも危ない。出る」と誰かが叫び、母が手を引いて海に向かって走り、その時、足に大やけどを負いました。「この子は助からん」という声が聞こえましたが、九死に一生を得ます。
「足が焼けるようでした。戦争は街を焼き尽くし、情け容赦なく人を殺すもの。戦争反対の私の原点です。佐伯さんは「二度と戦争はしてはいけない」と2000万署名を訴えて回りました。はんこ屋店主、スポーツジムの会員と知人たちが

戦前へ逆行の与党・補完勢力に負けられぬ



坂本和枝さん



門脇潤二朗さん

集めた分も入れると、350人を超えます。
「戦前の暗い時代への逆戻りを狙う安倍自公与党と補完勢力に負けられない。市民と野党の連帯がますます強くなってきました」と同実行委員会世話人の門脇潤二朗さん(77)はいいます。
元国語教師の門脇さん。各駅頭で週に何度もマイクを握るかたわら、教え子に毛筆で手紙を書いて2000万署名を訴えています。
「先生はいつも青春しているんですね。筆書きのお手紙を頂いて感謝です」と返事と一緒に署名を寄せた教え子は20人にも。神奈川県でPTA役員をしていると近況を知らせてきた女性は60人分の署名を送ってきました。

保育士だった妻のかつ子さん(73)は「駅頭で、お世話した子どもたちに会おうとすぐうれしくなります。保護者から預かって育てた子どもたちが、次の世代の子どもたちを戦場に送りたくありません」と話します。
明石市議会は、戦後15年の60年に全国で3番目に非核都市宣言を行いました。民主団体や市民の働きかけもあって、市広報誌は、たびたび明石空襲の実相と平和の尊さを特集してきました。

核兵器容認ノ—

市内の幅広い団体や個人で「ピースフェスタ」に10年間とりくんできた明石原水協の坂本和枝さん(78)。「憲法の番人」の内閣法制局長官が「憲法上、核兵器の使用が禁止されているとは考えていない」と核兵器使用容認発言をしたことに憤ります。「核兵器の輸送も法文上は排除していない」と認めた中谷元・防衛相の答弁に続く時代逆行の暴言です。平和の願いを踏みつけにする動きに反対し、戦争も核もない社会をつくるために頑張ります」と語っています。